

戦略的創造研究推進事業 CRONOS における 2025 年度新規研究開発課題の決定について

JST（理事長 橋本 和仁）は、戦略的創造研究推進事業 情報通信科学・イノベーション基盤創出（CRONOS）の 2025 年度における新規研究開発課題および研究開発代表者を決定しました。

本プログラムは、情報通信分野の重要性が世界的にもますます増していることを踏まえ、Society5.0 以降を見据えた未来社会における大きな社会変革を実現可能とする革新的な情報通信技術の創出と、革新的な構想力を有した研究人材育成に取り組み、日本の情報通信技術の強化を目指すものです。

2025 年度も昨年度に引き続き、主に情報通信分野を支援する中尾領域（プログラムオフィサー（PO）：中尾 彰宏）と主に情報処理分野を支援する川原領域（PO：川原 圭博）の 2 領域で提案募集を行いました。2025 年 3 月 5 日（水）～5 月 21 日（水）に募集を行い、全体で 8 課題程度の採択予定に対して産学官各界より 138 件もの応募がありました。

募集締め切り後、PO が領域アドバイザー（AD）らの協力を得ながら、領域ごとに書類選考と面接選考を行いました。厳正な選考の結果、採択予定であった 8 課題に加え、3 課題の追加採択を決定しました。

各領域でのマネジメントの下、成果最大化に向けて研究開発を推進します。

■篠原 弘道 プログラムディレクター（PD）のコメント

今年は 2 回目の募集で、CRONOS の趣旨に合致してグランドチャレンジに挑む、質の高い提案が多数ありました。PO や AD の先生方の熱心な討議を経て、各領域とも多彩な素晴らしいテーマを選定するに当たり、予定を上回る採択結果となりました。CRONOS は情報通信分野における基盤技術としての革新性に加え、移行研究後の社会インパクトの大きさも重視しています。また、研究開始後には多くの研究者を巻き込んで研究の裾野を広げ、また頂を高めることも期待しています。研究推進に当たっては、ステークホルダーとの連携や、社会受容性の観点での取り組みなど必要な支援を行っていきたくと考えています。

事業および選考・採択結果の詳細は以下ウェブページを参照してください。

CRONOS ウェブページ URL : <https://www.jst.go.jp/kisoken/cronos/>

採択課題一覧など URL : <https://www.jst.go.jp/kisoken/cronos/koubo/2025/list.html>

<添付資料>

参考：戦略的創造研究推進事業 CRONOS の概要

<お問い合わせ先>

<事業に関すること>

科学技術振興機構 未来創造研究開発推進部

〒102-0076 東京都千代田区五番町 7 K's 五番町

菅原 理絵 (スガワラ マサエ)

Tel : 03-6272-4004 Fax : 03-6268-9412

E-mail : cronos@jst. go. jp

<報道に関すること>

科学技術振興機構 広報課

〒102-8666 東京都千代田区四番町 5 番地 3

Tel : 03-5214-8404 Fax : 03-5214-8432

E-mail : jstkoho@jst. go. jp

<科学を支え、未来へつなぐ>

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JST は、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JST は荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JST は、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

戦略的創造研究推進事業 CRONOS の概要

戦略的創造研究推進事業 情報通信科学・イノベーション基盤創出（CRONOS）の詳細内容は、ウェブページ（<https://www.jst.go.jp/kisoken/cronos/>）にて公開しています。

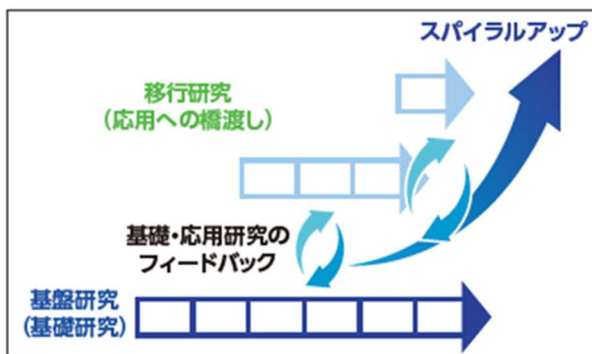
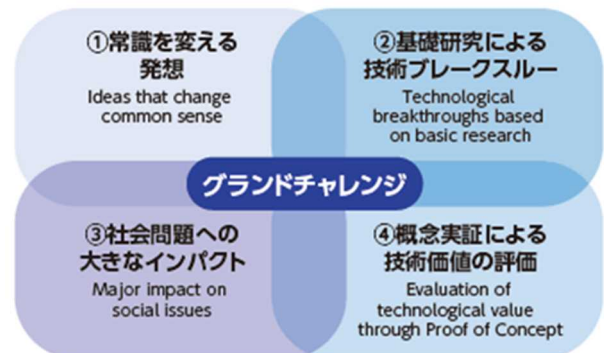
プログラムの概要

本プログラムでは、Society5.0 以降を見据えた未来社会における大きな社会変革を実現可能とする革新的な情報通信技術の創出と、革新的な構想力を有した研究人材育成に取り組み、日本の情報通信技術の強化を目指します。研究開発の推進に当たっては、情報通信科学の常識を変えるビジョンがあり社会問題への大きなインパクトをもたらす挑戦的な目標（グランドチャレンジ）を設定します。その貢献に向け、基礎研究と応用研究の垣根を越える運用スキームにより、社会変革につながる基礎研究とその成果の概念実証（POC：Proof of Concept）等を促進します。

本プログラムの運営は、プログラムディレクターが、プログラムアドバイザーからの助言等を踏まえ、統括します。また、提案された課題の選考や採択した課題の研究マネジメントや評価等は、領域ごとにプログラムオフィサーが領域アドバイザーらの協力を得ながら行います。

<グランドチャレンジ>

グランドチャレンジのコンセプトは、右の図の①～④を含むものとし、グランドチャレンジはさまざまな技術領域・階層を包含するもので、この達成に向けた取り組みを通じて、多様な研究アプローチにおける革新的な情報通信技術の創出と人材育成を図ります。



研究開発期間 5.5年(6ヶ年度)以内
研究開発費総額 約2億2,000万円～3億円程度

<運用スキーム>

本プログラムにおける研究開発課題は、基礎研究を中心とする「基盤研究」と、応用への橋渡しを目指す「移行研究」から構成されます。本プログラムでは、情報通信科学における研究開発の特徴を踏まえ、基礎研究と応用研究の垣根を越える運用スキームを取り入れ、社会変革につながる基盤研究とその成果のPOC等に取り組みます。

以上